

「頭」も「心」も活性化する授業を通して 受験に必要な「成長力」を育む

新宿と渋谷に教室を持つグノーブルは、中1〜高3までの生徒が通う大学進学塾。2006年に開設された新しい塾ですが、第一期生がチャレンジした2007年度入試では、東大をはじめ難関大学に数多くの合格者を出し注目されています。卒業生は塾を評して、「授業が楽しかった」と言います。生徒たちをひきつける魅力はどこにあるのか。高い実績をもたらした教育方法とはどのようなものなのか。中高6年間にける家庭と塾の役割など子育て論もまじえ、代表の中山伸幸先生に話をうかがいました。

自立準備期の中高6年間 保護者はどうかかわるべきか

2007年春に第一期生187名が卒業されましたが、東大38名をはじめ国立大の合格者が74名、医学部の合格者が44名など、初年度ながら、すばらしい実績ですね。

中山 生徒たちのがんばりと、教師が生徒一人ひとりをしっかり見つめ、引っ張っていったくれたおかげだと思っています。

受験が終わってしばらくしたころ、第一期生の保護者の方を対象に、受験へのかかり方についてアンケートをとりました(図1)。グラフを見ておわかりのように、大学受験においては、勉強面でも学校選びでも本人が主体で、保護者は一歩引いた立場からお子さまを見守っているよう

です。

中学・高校期は「自我の確立・自立の準備期」です。この時期に周りの大人たちが、子どもとどうかかわるかには非常に大事です。そして、この大切な時期に保護者が子どもの成長を阻んでしまうと、問題あるパターンが二つあります。

一つは「即刻大人扱い型」です。「もう中学生なんだから自分でやりなさい」と、いきなり大人扱いして、放任してしまう。中学受験は保護者が積極的にかわっていたのに、いきなり突き放されたのでは、子どもは戸惑ってしまいます。

学校でもそういう学校があります。自分でやるのが当たり前と、やれていない生徒がいても、ほとんど声も

ていくなかで、取り残されていきま

す。保護者の方は「こんな一生懸命やっているのに」と思います。ご自分が成長の芽を摘んでいるかもしれないということには思い至っていないかもしれません。

自ら好奇心を持って学び 成長できる雰囲気づくりを

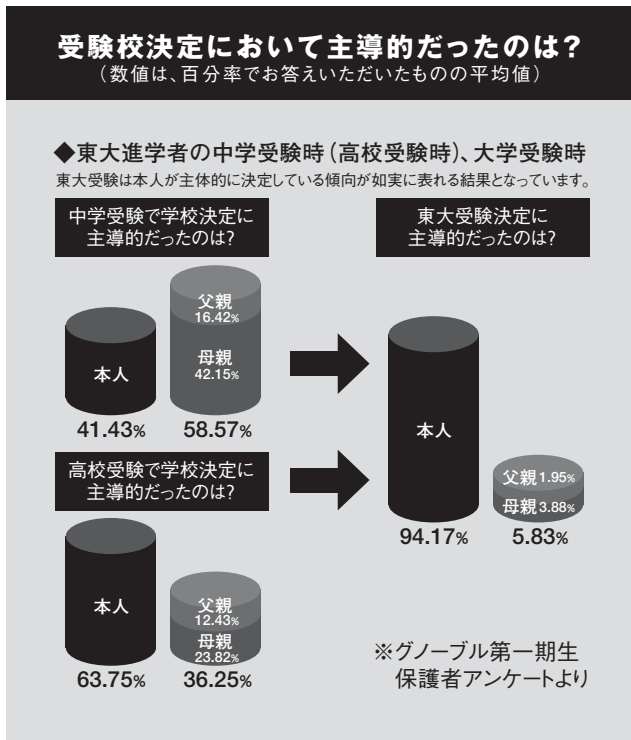
家庭で保護者はどのように関わったらよいのでしょうか。

中山 家庭の役割は何かというと、まず子どもにとっての「安全基地」であることです。保護者を批判したり、うるさかったりする年齢ですが、それでも、保護者が自分を見ていてくれるという、安定した環境があるほうが、受験勉強に安心して取り組めますし、実力も伸ばせます。

家庭に知的な雰囲気があることも大切です。とくにお子さんと知的な会話を交わさなくても、何気なく両親の会話を耳にしたり、本棚に並んでいる本を見たりするなかで育まれていくものがあります。家庭に知的環境があるかどうかは、「宿題やったの？」と言うことより大事なことです。

もちろん中学生はまだ自分自身のことをコントロールできませんから、勉強に向かえるような雰囲気を作ることが必要です。それが成

●図1. 受験における保護者のかかり方



中山伸幸先生

グノーブルが提唱する 「塾の役割」とは

長の芽を伸ばすうえで大切です。

中山 私たちのような塾に求められている役割も、そこにあると考えます。生徒たちが自ら好奇心を持って取り組み、「こういうことか」と納得して蓄積した知識やものの考え方は、大学受験でも力を発揮し、さらに、入学後も高度な知識の礎になって開花していくでしょう。私たちの塾ではそういう勉強をめざしています。

「宿題をやったこと」「授業に真剣に取り組むこと」が当たり前だという空気を作ります。「周りの生徒はかなりしっかり調べてきているみたいだ、こんなに深く考えている、しかも楽しそうにやっている、自分もやってみよう」、そういう雰囲気を醸し出せるよう、教師たちは考えて授

授業中でも個別添削し 一人ひとりを把握

個別指導でないにもかかわらず、授業中でも一人ひとりに添削指導を行っているとうかがいましたが。

中山 はい。一人ひとりをしっかり見るため、私たちは毎回必ず、生徒たちの答案やノートに目を通して添削をしています。〇×をつけるのではなく、コメントを書いていくのです。授業中でもどんどん個別添削しますから、生徒はどこをどう間違えたか、どんなことに注意すればよいか、その場ですぐわかります。

第一期生が寄せた「合格者の声」にも、個別添削への感謝がたくさんつづられていますね。先生のコメントを読むのが楽しみで「試行錯誤して答案を書いた」という声もあり、



グノーブル独自開発の英語音声トレーニング(ワークアウト)。6学年すべてに授業ごとの素材が用意されており、楽しく新鮮に取り組めます。「聴き込み(Listening)」「口まね(Retention/Shadowing)」「音読(Reading aloud)」などの合理的なワークアウトを通して、グノーブル生は本格的な英語力を築いています。